



ご当地 **お坊さん** 茨城

茨 歯 会 報

No.552

茨城県歯科医師会

Ibaraki Dental Association

March

2015

平成27年

3





Contents

デンタルアイ	1
小 鹿 典 雄	
会務	4
理事会報告	13
会務日誌	15
学術委員会だより	18
地域保健委員会だより	21
介護保険委員会だより	23
広報委員会だより	26
医療管理委員会だより	27
センターだより	29
女性歯科医会だより	31
寄稿	32
小松崎 豊	
町 田 政 道	
ピンクのエプロン	38
海老澤 広 美	
リレー通信	39
阿 部 吉 晴	
国保組合 NEWS	41
赤えんぴつ	42

表紙写真について

3月中旬、茨城県フラワーパークで、250本の早咲きの河津桜が見頃になりました。
(社)土浦石岡歯科医師会 大木 勝生

雑 感



副会長
小 鹿 典 雄

副会長を仰せつかって4年が経とうとしている。この間に様々なことがあったが、その中で感じたいくつかの雑感を述べてみたい。

茨城県歯科医学会

先日開催された歯科医学会は1200名を超える参加者があった。20数年前に二百数十名の参加者を迎えて第1回を立ち上げたことを考えると隔世の感である。紆余曲折を経ながらもここまで消えることなく継続し、ここまで発展し続けて来たことを、歯科医学会を支えて下さった皆様に感謝申し上げる。

今回担当した弁当プロジェクトでは、参加者の方から「もう20年近くこの学会の食の企画に参加している」という発言があり、これは非常に嬉しいことであった。

若い頃は歯科医学会で何ができるだろうか、というワクワク感があったが、思えば「随分遠くに来たものだ!」。

歯科医師の役割の本当の意義の浸透

大久保日歯会長は2006年の対談の中で「(前略)、我々の役割の本当の意義がなかなか浸透しない。私は、その落差を埋めるのも歯科医師会の大切な仕事だと思っています。」と述べら

れている。¹⁾

この4年の間に、様々な行政の方とお話しする機会があったが、残念ながら「歯科医師」という認識よりも「ハイシャ」という程度の認識しか無い方が多く見られた。

県歯でも会長を先頭にこの「大切な仕事」に取り組んでおり、じわじわと浸透はしているが、まだまだ「道遠し」である。

個人と会務

昨年の12月号に田中先生がいろいろ書いていた²⁾が、確かに田中先生とは随分やりあった。時には本気で、ある時は活性化のため、ある時には場の雰囲気を変えるため。(モチロン私には『説得力に優る暴力がある²⁾』相手と口で戦う以外に術は無いので物理的距離は十分保った上で)

専務とも、会長が困るほどやりあった。しかしやりあった後に決まったことに対しては、あいつが気に入らないから協力しない、などうじうじと個人の感情を持ち込むことはお互いに一切なかった。

個人的な好き嫌いも含めてやりあう時はとことんやりあって(手ではないですよ、田中先生念のため)、その結果決まったことは一丸と

なって一緒にやらなくては良い組織にはならないし、組織として良い仕事ができないと思う。

エライ、エラくない

4年間見ていて、日歯の役員はその役職に費やす時間と労力、そして負っている責任を考えるとただただ「偉い」と言うしかない。田中先生のような暴れ馬から私のようなおとなしい子鹿までを束ねている森永会長は「偉い」ことは間違いない。

しかし歯科医師としての会員は皆平等である。（とは言え、自分がその範疇に入ってきたので高齢者はとりあえず大切にしてほしいが）

役職上、上司と部下の関係にある職員の方も職員として皆平等は同じではないだろうか。

「上司」は負うべき責任が大きくなるからその対価が支払われるわけで、「部下」を感情のままに自分の自由に扱って良いということではない。「部下」が居ないと職務を遂行することができないのだから、「部下」をやる気にさせて良い仕事をしてもらい、その責任を負うことで会を円滑に動かして自分の実績を上げていくことが「上司」の役目だと思う。

歯科医師会の組織の中でも、事務局の組織の中でもそこを「エライ」から、「エラくない」からと勘違いしている人がいないだろうか。それは組織をダメにしていく根源である。ポディーブローの如くジワジワと……。

職場

職場は仲良しの集まったコミュニティーではない。役職の上下関係の風を吹かす組織でもない。従って、あいつが嫌いだからいっしょに仕事をしたくない、というならば自分が辞めるか相手に辞めてもらうしかない。

職場に留まりながら、個人的な感情を職場に持ち込みコミュニケーションの障害になったり、業務遂行に支障をきたすことは背信行為である。

職場での勤務に、一個人の問題を持ち込み周囲を巻き込むのは許されない。特に職員の皆さんには自分はどうなのか、それぞれ自問して頂きたい。

歯科専門学校

専門学校はこの4年間で良い方向に大きく変化した（と自分では思っている）。その原動力である学校教頭の田中先生の活動ぶり²⁾は多くの会員の皆様の周知のことと思う。

4年前に学校担当を引き受け、その学校の現状を目の当たりに見た時、これから何をやっても後ろ指を指されないようにと、「武士は食わねど高楊枝²⁾」の私はそれまであった学校長報酬の返上をした。当然自分1人ではイヤなので「お金があればとりあえず幸せ²⁾」だとは知らずに田中教頭も道連れにした。卑怯にも絶対に断れないような公の会議の席で、「ネッ！田中先生もいいですね！」と。

田中先生にとってはほんの1日の小遣い程度の額ではあると思うが、4年間の動きを見ていて、自分の道連れにしたことをずっと後悔している。（リゴリズムではなく²⁾、単に1人じゃイヤだったただけなので）

会員の皆さんは、「それなりの報酬を貰っているからあれだけやって当然だろう」と思っている方が多いのではないだろうか。それでは余りに田中教頭が浮かばれない。少しでも現状を理解して頂くため、ここに現執行部とその前の報酬一覧を提示してせめてもの償いにしたい。

学校長として感謝しつつも、本当に申し訳無いことをしたと思っている。（うっとうしい²⁾、と思われてしまうだろうが)

次の執行部で人員の交代があって、校長・教頭の報酬が復活したとしても、それが正常な姿だと4年現場を担当してみても思うので、会員の

皆様には非難することなく認めて頂けるようお願いしたい。

参考文献

- 1) 日歯医師会誌.67 (11):504～519, 2006
- 2) 茨歯会報 2014年12月号 デンタルアイ



We try best!
For healthy and white teeth



株式
会社 岩瀬歯科商会

本 社	〒110-0016 東京都台東区台東2-23-7	TEL 03-3832-8241
水戸支店	〒310-0804 茨城県水戸市白梅2-8-18	TEL 029-225-6543
宇都宮支店	〒321-0905 栃木県宇都宮市平出工業団地37-6	TEL 028-613-5858
松戸支店	〒270-0034 千葉県松戸市新松戸3-366	TEL 047-345-3131
野木支店	〒329-0111 栃木県下都賀郡野木町丸林384-15	TEL 0280-56-0567

千葉支店・福島支店・世田谷支店・横浜支店・前橋支店・大宮支店・東大和支店・盛岡営業所

理事会報告

第12回理事会

日時 平成27年2月19日（木）午後4時

場所 茨城県歯科医師会館 会議室

1. 報 告

- (1) 平成26年度第4回業務会計監査報告
- (2) 一般会務報告
- (3) 共催依頼について
つくばピンクリボンフェスティバル
- (4) 26年度エイズ治療拠点病院等連絡会について
- (5) 「国民医療を守るための国民運動」の展開について
- (6) 平成26年分所得税青色申告決算書の調査について
- (7) 講習会等の駐車場について
- (8) 疾病共済金の支払についてについて
- (9) 役員報酬の減額について
- (10) 四師会講演会について
- (11) 各委員会報告について
学術委員会、医療管理委員会、地域保健委員会、介護保険委員会、専門学校
- (12) 古川医療アドバイザー業務報告について

2. 協議事項

- (1) 学校からの外部講師派遣依頼について
標記について、各学校の学校歯科医が対応する。対応困難の場合、地区にて検討していただくこととした。
- (2) 第2回地区会長協議会について
標記について協議し、X-ray使用実習も行うこととした。

- (3) 単位認定の申請について 小山記念病院「がん診療勉強会」

標記について承認することとした。

- (4) 会員功労賞について

標記について会員13名について承認した。

- (5) 永年勤続従業員について

標記について永年勤続従業員51名について承認した。

- (6) 心身障害者（児）歯科診療事業に係る損害金及び加算金について

標記について協議し、承認することとした。

- (7) 公益法人立入検査の措置状況報告書について

①指摘事項に対する回答書（案）について

標記について承認した。

②公益社団法人茨城県歯科医師会事務処理規程（案）について

標記について承認した。

③公益社団法人茨城県歯科医師会事務局規程改正（案）について

標記について承認した。

④公益社団法人茨城県歯科医師会職員規程改正（案）について

標記について、一部訂正することとし、承認した。

⑤決裁内規について

標記について承認した。

- (8) 歯科医学会の講師謝礼について

標記について規定通りに支払うことについて承認した。

- (9) 口腔センターの改称について

標記について継続協議とした。

- (10) アイ・デー・エス福利厚生事業について
標記について、開催時期を検討することとした。
- (11) 消費増税に関する調査について
標記について、大字常務理事に一任することとした。
- (12) 茨城県からの委託事業について
標記について、実行期間が短く内容の検討時間が無いため本年度は辞退することとし、

最終決定は三役一任とした。

- (13) 非会員の講習会参加の件について
標記について原則、公益社団として認めることとした。
- (14) JMAT茨城研修会参加資格について
標記について、非会員の参加も認めることとした。
- (15) 茨歯連盟役員との相互交流について
標記について継続協議とすることとした。

電話相談のお知らせ

現在、茨城県歯科医師会では会員の方々の様々な疑問、問題に対処できるよう以下の3名の専門家と顧問契約を結んでおります。

顧問弁護士	大和田一雄氏	法律相談全般
医療アドバイザー	古川 章氏	保険請求や各種届出などに関する事
社会保険労務士	皆川雅彦氏	従業員との労働契約、労務関連など

相談したい事柄がございましたら、お気軽に茨歯会事務局まで電話、またはFAXにてご連絡ください。各先生との相談の日程などの調整、あるいは後日回答できるように致します。ただし、相談は無料ですが、その後は個別対応となります。



茨城県歯科医師会事務局

電話 029-253-2561
FAX 029-253-1075

会務日誌

- 2月19日 第11回広報委員会を開催。会報2月号の校正、会報3月号の編集、茨歯会報ファイル、歯科医学会、歯科コラムについて協議を行った。
- 出席者 楠美広報委員長ほか3名
- 2月19日 第4回業務・会計監査を執行。業務並びに制度に関する監査（11月1日～1月31日）、会計に関する監査（収支現況）を実施した。
- 出席者 鈴木監事ほか6名
- 2月19日 第12回理事会を開催。学校からの外部講師派遣依頼、第2回地区会長協議会、単位認定の申請、会員功労賞、永年勤続従業員、心身障害者（児）歯科診療事業に係る損害金及び加算金、公益法人立入検査の措置状況報告書、歯科医学会の講師謝礼、口腔センターの改称、アイ・デー・エス福利厚生事業、消費増税に関する調査、茨城県からの委託事業、非会員の講習会参加の件、JMAT茨城研修会参加資格、茨歯連盟役員との相互交流について協議を行った。
- 出席者 森永会長ほか18名
- 2月20日 都道府県会長会議が日歯会館にて開催され、時局問題について協議を行った。
- 出席者 森永会長
- 2月22日 第23回茨城県歯科医学会を水戸プラザホテルにて開催。24題の一般口演、20題のポスター発表、3題のテーブルクリニック、2題の公開講座、14の各種企画、書籍展示などを行い、1,287名の参加者を見た。
- また併催した第36回茨城デンタルショーへは64社が出展し、歯科用機材などの展示を行った。
- 2月23日 茨城県警と茨城県歯科医師会との相互協力に関する覚書締結式が県警本部庁舎にて行われた。
- 出席者 森永会長ほか3名
- 2月24日 第1回在宅歯科医療推進協議会を茨歯会館にて開催。「在宅歯科医療推進協議会」設置・運営ほかについて協議を行った。
- 出席者 森永会長ほか3名
- 2月24日 生活習慣病予防事業推進協議会が県医師会館にて開催され、平成27年度事業計画について協議を行った。
- 出席者 渡辺常務
- 2月25日 小美玉市と小美玉市歯科医師会ならびに東西茨城歯科医師会の間で災害時の歯科医療救護についての協定を締結し、その調印式が小美玉市役所にて行われた。
- 出席者 森永会長ほか1名
- 2月25日 第2回がん診療医科歯科連携推進協議会が日歯会館にて開催され、がん診療医科歯科連携

事業における歯科医師・医科関係者へのさらなる周知・普及を目的とした意見交換が行われた。

出席者 岡崎理事

2月25日 「JMAT茨城研修会」準備委員会が県医師会館にて開催され、JMAT茨城研修会について協議が行われた。

出席者 小鹿副会長ほか2名

2月26日 第3回選挙管理委員会を開催。立候補者の資格審査、茨城県歯科医師会役員選挙について協議を行った。

出席者 堀江選挙管理委員長ほか4名

2月28日 茨城県歯科大学同窓会・校友会懇話会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者 森永会長

3月 4日 茨城歯科専門学校において卒業式を挙行。歯科衛生士科49名、歯科技工士科15名の学生が本校を卒業した。

3月 5日 茨城政経懇話会3月例会がホテルテラスザガーデン水戸にて開催された。

出席者 森永会長

3月 6日 こどもを守る110番の家ネットワーク会議が県警本部にて開催された。

出席者 長谷部理事

3月 7日 第3回医療管理委員会を結城市内にて開催。スタッフセミナー、歯科衛生士復職支援講習会、医療安全管理研修会、次年度歯科助手講習会について協議を行った。

出席者 大字医療管理部長ほか9名

3月 8日 第2回スタッフセミナーを結城市民情報センターにて開催。接遇マナーの基本、おもてなしの心の表し方について接遇マナー講師 細谷朋子先生を招いて研修を行った。

受講者 29名

3月 8日 四師会「JMAT茨城研修会」が県立消防学校にて開催された。午前はJMAT総論の後、17チームに分かれての図上講習、各師会内部講習が行われ、午後からはドクターヘリの要請・搬送、テント設営、無線を使った情報伝達訓練が行われた。

出席者 森永会長ほか23名

3月 9日 内外情勢調査会3月例会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者 森永会長

3月10日 新規指定の保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。

対象医療機関数 4

3月11日 日立歯科医師会との共催により全国共通がん医科歯科連携講習会を日立市において開催。がん医療に携わる歯科医師の人材育成を目的にDVDによる講習会を行った。

受講者 21名

3月11日 東日本大震災四周年 追悼・復興祈念式典が北茨城市大津漁港にて開催された。

出席者 森永会長

3月12日 第177回日歯代議員会が日歯会館にて開催される（～13日）。平成27年度事業計画の件、

入会金及び会費の額の件、収支予算の件、資金調達及び設備投資の見込みの件について議事を執り行った。

出席者 森永日歯代議員ほか2名

3月13日 「健康寿命延伸のための歯科医療・口腔保健」をテーマに「世界会議2015」が東京国際フォーラムにおいて3日間にわたり開催された。

出席者 森永会長ほか2名

3月14日 四師会協働地域包括ケア・シンポジウムが茨城県医師会にて開催された。「いま地域医療を考えるinいばらき」をメインテーマに基調講演、講話、ディスカッションが行われた。

参加者 28名

3月15日 東西茨城歯科医師会との共催により全国共通がん医科歯科連携講習会を笠間市において開催。がん医療に携わる歯科医師の人材育成と全国のレベル統一を図るDVDによる講習会を行った。

受講者 32名

3月17日 常総市と常総市歯科医師会の間で災害時の歯科医療救護についての協定を締結し、その調印式が常総市役所にて行われた。

出席者 森永会長

3月17日 第2回在宅歯科医療推進協議会を開催し、在宅歯科医療実態調査事業ほかについて協議を行った。

出席者 仲田理事ほか2名

アイ・デー・エスは…

医 師 賠 償 責 任 保 険

火 災 保 険

所 得 保 償 保 険

小 規 模 企 業 共 済 制 度

自 動 車 保 険

生 命 保 険

…など各種保険の代理店、集金業務を行います。新規加入、増額変更、何なりと御用命下さい。

(アイ・デー・エスは、イバラキ・デンタル・サービスのイニシャルです。)

有限会社 **アイ・デー・エス**

代表取締役 **森 永 和 男**

水戸市見和2丁目292番地 茨歯会館内 TEL:029(254)2826



第23回茨城県歯科医学会開催

学術委員会 今湊 良証

2015年2月22日（日）に、第23回茨城県歯科医学会（併催 第36回茨城デンタルショー）および、日本補綴歯科学会東関東支部総会・第18回学術大会が水戸プラザホテルにて開催されました。

昨年は20年振りとなる記録的な大雪のため、交通機関がマヒ状態のため、来場が大変困難でしたが、今年は歯科医師528名 歯科衛生士209名 歯科技工士69名 他多数で過去最高1287名の参加者で、駐車場が満杯になり（ご迷惑をおかけしました）、学会場は熱気で盛り上がりました。

開会式で森永会長の開会宣言の後、テープカッ

トが行われ多くのプログラムが各会場に分かれて開催されました。



一般口演は24題の発表がありました。栃木県歯科医師会員の先生や、茨城歯科専門学校衛生士科学生の発表もありました。質疑応答、意見交換も行われ充実した内容でした。

ポスター発表は過去最多20題の発表がありました。沢山の方がポスターに見入っておりました。

テーブルクリニックは午前土浦石岡歯科医師会 萩原敏之先生、午後東京歯科大学教授 齋藤 淳先生、日本大学松戸歯学部 鈴木浩司先生、計3題の講演が行われました。

県民公開講座は、各百名の事前登録制でしたが、電話予約で定員オーバーとなり、うれしい悲鳴でした。

公開講座Ⅰは、『おいしく、楽しく、美しくなる「摂食機能」の実力』と題しまして日本大学歯学部教授 植田耕一郎先生にご講演いただきました。参加者も講師と共に呼吸法や叩打法を行い、



会場全体が一体となり、最後には涙ぐむ方も居りました。



公開講座Ⅱは、『弁当プロジェクト2ー「食べる」を育てる・維持する・補うー』と題しまして、公益社団法人 茨城県歯科医師会、いばらき専門カレッジリーグ、茨城県歯科医師会東西茨城地区食文化研究会により行われました。今年度の公募で表彰した＜噛むかむレシピ賞＞を入れた「機能を維持する・噛むかむ弁当」、ユニバーサル弁当箱に楽食を入れた「機能を補助する・楽食弁当」を提示し、それぞれを試食し、考察しました。

学校歯科委員会・いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会は「スポーツデンティストの役割とこれから」と題しまして日本スポーツ・健康づくり歯学協議会会長 杉山義祥先生にご講演いただきました。

介護保険委員会は「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」と題しまして東京医科歯科大学大学院准教授 戸原 玄先生にご講演いただきました。

茨城県身体障害者小児歯科治療センター・土浦心身障害者歯科治療センターは、「障害のある子どもたちへの安全な歯科治療ー明日から役立つ障害者歯科：臨床のヒントー」と題しまして、日本大学歯学部教授 白川哲夫先生にご講演いただきました。

茨城県女性歯科医会は、「西洋・東洋医学から見た、口臭治療」と題しまして中城基雄先生にご

講演いただきました。

鈴木昇一先生の「写真道場へようこそ！」は17回目を迎えました。

(公社) 茨城県歯科衛生士会は川崎律子先生、(公社) 茨城県歯科技工士会は石川功和先生にご講演いただきました。

茨城歯科専門学校 歯科衛生士科と歯科技工士科の紹介をロビーにて行いました。



地域保健委員会は第4回噛むかむレシピコンテストの作品紹介と表彰式を開催いたしました。県内各地から過去最多425作品の応募の中より、自由部門とテーマ部門（今年の食材：わかさぎ）それぞれ、小学生の部4作品、一般の部8作品が「噛むかむレシピ賞」に選ばれました。



学校歯科委員会は、学校歯科検診の検診基準についてポスター展示しました。

厚生委員会は、なでしこクラウドの弦楽三重奏・ミニコンサートを行い、癒しのひと時となりました。



ランチョンセミナーは、「フッ化物製剤のプロフェッショナルな利用」と題しまして神奈川歯科大学大学院教授 荒川浩之先生にご講演いただきました。事前予約の受講者は美味しいサンドイッチのランチを頂きながらも、演題に聞き入っておりました。

第13回福田賞は、茨城県歯科医学会において長年にわたり臨床と研究の成果について数々の優れた発表を行い、会員の歯科医療医術の向上に多大な貢献をして頂いた、土浦石岡歯科医師会の萩原敏之先生が受賞されました。おめでとうございます。

今回は日本赤十字社、茨城県赤十字献血センターのご協力により、57名に献血いただきました。血液は人工的に造ることも長期間保存もできません。まことにありがとうございました。



また、併催した36回茨城デンタルショーは、64社が出展し診療台、歯科用機材などの展示を行い、各ブースとも盛況でした。

現在 学術委員会では、第23巻 茨城県歯科医学会誌を編集集中です。今夏には発刊予定です。投稿論文も募集しております。一般口演、テーブルクリニック、ポスター発表、各企画などの事後抄録は第23巻を今暫くお待ちください。

茨城県歯科医学会は年々、少しずつではありますが、その規模を拡大前進しております。今後も更なる発展のため、会員の皆様のご協力よろしくお願い致します。

次回第24回茨城県歯科医学会は、来年3月6日（日）水戸プラザホテルにて開催されます。是非とも皆様の発表、参加をお待ちいたしております。



第4回噛むかむレシピコンテスト表彰式

地域保健委員会 佐藤 淑朗

2月22日（日）、水戸プラザホテルにて開催された歯科医学会において、第4回噛むかむレシピコンテスト表彰式を行いました。

このコンテストは、全身の健康と食育のために噛むことの意義を広く啓発することを目的として、噛む回数を増やすレシピを公募する企画で、平成23年度から実施しています。

第2回目から地産地消の推進にも努め、募集条件に「茨城県の食材を活用すること」を加え、さらに第3回には「農業産出額全国第1位～第3位となる茨城県産作物から1品以上を活用したレシピ」と具体的に示しました。

応募数は第1回62作品、第2回70作品に続き、第3回に236作品と大幅に増加しました。これはこのコンテストが周知されてきたことと、授業課題として取り組まれた学校からの応募が増えてきたことが大きな要因です。

4年目となる今年度は、これまでの募集条件を「自由部門」とし、新たに「テーマ部門」を設け、わが県を代表する魚である「わかさぎ」をテーマ食材として募集を試みました。

今回はさらに応募数が増え、総数は425作品にのばりました。

自由部門 一般の部330作品、
小学生以下の部75作品
テーマ部門 一般の部15作品、
小学生以下の部5作品

さる1月22日に審査会を行い、厳正な審査の結果、12作品を噛むかむレシピ賞に決定しました。

表彰式は、森永会長の主催者挨拶に続き、北見委員長よりコンテストの経過報告がありました。

続いて表彰が行われ、賞状と記念品が授与されました。部門ごとに記念撮影を行いました。御家族も持参のカメラで撮影し、会場は笑顔がいっぱいでした。

最後に中川学園調理技術専門学校・中川一恵先生が作品の総評をされましたが、「応募者の創意工夫が素晴らしく、受賞を逃した作品にもレベルの高いものがあった」と評価をいただきました。

受賞者の作品は、表彰式会場とガーデンルーム前ロビーに写真とレシピを展示しました。

歯科医学会の午後のイベント、公開講座「弁当プロジェクト2」では今回の受賞作品のなかから4作品が採用され、試食メニューとして紹介されました。噛むかむレシピ賞受賞者は、表彰式に引き続き、シンポジウムに参加され、ご自身のレシピについてどのように考えたか、アピールポイントなどを発表されました。

今回受賞された作品は茨城県歯科医師会ホームページに掲載されておりますので、是非閲覧されて、患者さまにもご紹介くださるようお願いいたします。

よく噛むことは口腔の健康を増進し、メタボリックシンドロームや認知症の予防にもつながります。このイベントをきっかけに噛むことの重要性とともに口腔の健康について県民の方々の理解が深まり、食育にもより関心が高まるよう、これからも企画を充実させていきたいと思っています。

第4回 噛むかむレシピ賞受賞者

1. 自由部門

(1)一般の部

	料理名	氏名
1	ほしいもとドライフルーツの パウンドケーキ風	二川 れいら
2	茨城野菜かむかむ春巻	大山 美緒
3	和風ご飯	田山 優花
4	レンコンとタコの肉団子	小澤 春香
5	野菜たっぷりお好みチヂミ	内田 京子
6	鰯のレンコンはさみ焼き	千葉 瑠花



自由部門 一般の部

(2)小学生以下の部

	料理名	氏名
7	歯ごたえがある、 根菜たっぷりすいとん汁	荘司 隼
8	茨城ロール	豊田 大河
9	ザクザクさつまいも団子	中山 茉莉



自由部門 小学生以下の部

2. テーマ部門 (テーマ食材：わかさぎ)

(1)一般の部

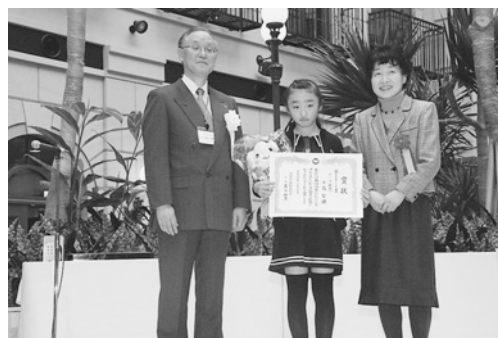
	料理名	氏名
10	わかさぎのほっこりコロッケ	菅谷 望
11	わかさぎとレンコン入り 酢飯ののり巻き	壹岐 幸太



テーマ部門 一般の部

(2)小学生以下の部

	料理名	氏名
12	わかさぎとじゃがいものグラタン風	小島 梨緒



テーマ部門 小学生以下の部

介護講習会 高齢者に対する口腔機能の評価と訓練方法 ～高齢者に優しい あなたに易しいプロの技～

関西女子短期大学 濱元 一美 教授

平成 26 年 10 月 26 日

茨城県歯科医師会館

介護保険委員会 神田 稔

10月26日の日曜日に、「高齢者に対する口腔機能の評価と訓練方法 ～高齢者に優しい あなたに易しいプロの技～」と題して、関西女子短期大学 濱元一美 教授による口腔ケア講習会が、水戸市歯科医師会主催、茨城県歯科医師会共催で行われました。

今回の講演は、在宅療養支援歯科診療所（歯援診）の施設基準の届けに沿う内容で行われました。概要は以下のとおりです。

①在宅歯科診療及び口腔機能向上に係る事項

②高齢者の心身の特性に係る事項

③口腔機能の管理に係る事項

④緊急事態対応に係る事項

＊①～④を含めた講義及び実習（聴診器を用いる）

講演終了後には出席者に、水戸市歯科医師会より、在宅療養支援歯科診療所の施設基準の届けに必要な講習会の受講証明書が授与されました。

以下、講演の概要です。

平成24年の実行動態統計で肺炎が日本人の死因の第3位になりました。

そのうち9割が誤嚥性肺炎とされています。

また、死因別死亡者数の割合では、1割の方が肺炎で亡くなっています。

誤嚥性肺炎は歯科関連疾患であり、われわれ歯科が関与すべき疾患です。

口腔ケアという名称の広がりと共に歯科の訪問診療も増えており、口腔の大切さが認識されています。これからは、医療、介護の多業種連携が重要になってきます。

高齢者の健康状態の特徴

1. 脱水…高齢者は体内の水分貯水量が少ないことから起こりやすい。

2. 低栄養…高齢者の場合、消化機能が低下することから起こりやすい。

基準 血清アルブミン値（3.8g/dl以下）、
BMI（18.5以下）

3. 感覚器障害…視力、聴力、味覚の低下

4. 廃用性症候群…長期間の臥床生活などによって、身体的、精神的機能が全体に低下する。

5. 体温…平熱の日内変動に注意する。36℃以下の体温の高齢者が食事2時間後位に37℃ぐらいになる場合は誤嚥を疑う。

高齢者によくみられる病気

1. 循環器系…高血圧症、虚血性心疾患、不整脈
2. 神経内科系…脳血管疾患、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）
3. 呼吸器系…肺炎
4. 腎・内分泌・代謝系…糖尿病
5. 筋・骨格系…関節リウマチ、骨粗鬆症
6. 精神疾患…認知症、うつ病、アルコール依存症

バイタルサインの確認

1. 脈拍測定…基準範囲は60～80回、50回以下は徐脈、100回以上は頻脈
2. 呼吸測定…基準範囲は1分間に14～20回
3. 血圧測定…収縮期血圧<130、拡張期血圧<85
4. 体温…一般的には36～37℃、高齢者の場合、低い値を示すことがある。平熱の確認が重要。
5. 経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）…心疾患や呼吸器系疾患の人、在宅酸素療法を必要とする人などに測定。血圧を測っている時や輸血中には、反対側の指で測定。酸素飽和度が90%以下の場合、医師や歯科医師に報告。訪問診療では測定しながら診療やケアをすると安全です。

専門的口腔ケア

口腔内をきれいにするだけでなく、口腔機能の維持、回復を目的とした機能的口腔ケアまで含まれる。

口腔ケアでは粘膜を磨くのが大切である。口唇や頬を広げることによりリハビリ効果が期待できる。

口から食べなくても口腔内は汚れている。上顎、特に口蓋部に痰のかたまりがついて汚れていることがある。硬くなっているときはピンセットで剥がして取るのではなく、重層やポッカレモンの希釈液等でふやかしてから取るようにする。イソジンは乾燥するので使わないほうが良い。

専門的口腔ケアを実施するには、口腔清掃状態の把握と口腔機能状態の把握が重要である。

口腔機能状態は、口腔の運動機能、咀嚼力、嚥下機能などを観察する。

運動範囲の評価

①舌の突出と後退

実施方法…開口位で舌の前方突出と後退運動を出来るだけ速く反復する。

評価…5秒間実施し、1秒間に換算する。

舌尖が下唇より前方に突出すれば1回とし、回数を測定する。

2回以上が正常。

②舌の左右移動

実施方法…開口位で舌尖の左右口角間の往復運動を出来るだけ速く反復する。

評価…5秒間実施し、1秒間に換算する。

舌尖が左右の口角間往復を1回とし、回数を測定する。

2回以上が正常。

③うがいテスト その1

リンシング（ぶくぶくうがい）テスト

評価…口唇が閉じられるか、舌口蓋閉鎖が出来るかの評価

1) できる

2) 口角から少量の水かこぼれる（口角が濡れる）

3) 口角から大量の水がこぼれる

4) 水を飲んでしまう 水が鼻に回る

5) 測定不能

④うがいテスト その2

ガーグリング（がらがらうがい）テスト

ぶくぶくうがい出来ることを確認してから行う

評価…頸部の後屈が行えるか、舌口蓋閉鎖が出来るかの評価

1) できる

2) 水を少し飲んでしまう

3) むせる

4) むせてできない

5) 測定不能

⑤オーラル・ディアドコキニシス

実施方法…パ・タ・カと発音して舌、口唇、軟口蓋等の運動の速度や巧緻性を評価する。

評価…10秒間測定し、1秒間に換算し値を判定する

嚥下機能の評価

反復唾液嚥下テスト (RSST)

嚥下機能の惹起性を測る方法

実施方法…30秒間でできるだけ多く空嚥下し、回数を測定する。

判定基準…3回未満で嚥下障害あり

実習 喉頭隆起・舌骨に指幅をあてて、空嚥下の際に喉頭隆起が3～4 cm上にあがる動きを確認
2人相互になって飲み込んだ時の音を聴診器で確認

摂食・嚥下障害のスクリーニング

認知期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期の5期に分けて考える。重複していることが多い

1. 認知期（先行期）の問題

- * 食べ物を見ても反応しない
- * 絶え間なく食事を口に運ぶ
- * ガツガツ食べる

2. 準備期の問題

- * 口の中に食事を取り込めない
- * 口から食事をよくこぼしたり流唾がある
- * 盛んにモグモグするが口の中に食事がそのまま残っている

3. 口腔期の問題

- * 盛んにモグモグするが飲み込まない
- * モグモグしている最中にむせやすい
- * 上を向いて飲み込もうとする
- * 飲み込んだと思っても口の中に食物残渣が目立つ

4. 咽頭期の問題

- * 飲み込むとむせる
- * 嚥下後、しばらくしてむせる
- * 固形食よりも水でむせやすい
- * 濃厚な痰がよくでる

5. 食道期の問題

- * 就寝してからむせる
- * 肺炎（熱発）を繰り返す
- * 飲んだものが逆流し、嘔吐することがある

摂食・嚥下障害に関する訓練

①間接的訓練…筋ストレッチ、脱感作療法、筋刺激訓練法、等

②直接的訓練…食事を用いた訓練

* 訓練前の口腔ケア、訓練後の口腔ケアは実施する

高齢者の全身状態と口腔機能の把握法から、事例を含めた具体的な口腔ケアの方法、そして摂食嚥下障害の分析からリハビリまで、まさに明日から使える有意義な講習会となりました。

介護委員会では今後ともさまざまな講演会を企画していく予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしています。



広報 委員会 だより

第23回茨城県歯科医学会報告

広報委員会 大木 勝生

2015年2月22日（日）、水戸プラザホテルに於いて、第23回茨城県歯科医学会（併催 第36回茨城デンタルショー）が開催されました。今年は日本補綴歯科学会東関東支部総会・学術大会も併催されました。



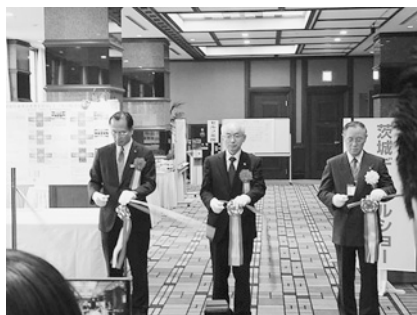
昨年は20年に1度と云う大雪で、参加者が698名でしたが、今年は歯科医師会員の歯科医師329名、非会員の歯科医師199名、歯科衛生士209名、歯科技工士69名、公開講座に180名など、総勢1,287名の参加者があり、お昼前には駐車場が満車になり、駐車待ちの車が渋滞するほどの盛況ぶりでした。

まず午前8時55分から9時15分まで、ホテル1Fのエントランスロビーに於いて、女性弦楽三重奏グループ「なでしこクラウド」によるウェルカ

ム演奏が行われ、受付には大勢の方がいらっしゃいました。続いて午前9時30分より開会式が、午前10時には2Fロビーに於いて併催のデンタルショー開催のテープカットが行われ、一斉に歯科医学会のプログラムが開催されました。今年は日本歯科補綴学会東関東支部総会・学術大会も併催されたので、より多くの方が来場され、プログラムも多岐に及んだため、どちらのプログラムへ行こうか迷った方も多かったと思います。

併催のデンタルショーも大盛況で、皆さん業者さんの方々と熱心に語り合っていました。私も今回初めて始めから終わりまで丸1日取材をさせていただき、かなり前から長い期間をかけて準備されてきた先生方や事務局員の皆様に、改めて感謝申し上げます。

学術講演会では最新の歯科医学に気軽に触れ、デンタルショーでは最新の器材に気軽に触れることができる絶好の機会が歯科医学会です。先生方のリフレッシュ、モチベーションの向上になる事は間違いありません。ぜひ来年も多くの方にご参加いただけるように、広報活動を続けたいと思います。



医療+管理委員会 だより

平成26年度第2回スタッフセミナー報告

医療管理委員会 鶴屋 誠人

平成27年3月8日、小雨降る肌寒い日曜日にもかかわらず、各地区の医院から29名のスタッフおよび2名の院長に参加いただいて、県西地区の結城市民情報センターにて本年度2回目のスタッフセミナーが開催されました。

講師には今回が2回目となる細谷朋子先生をお迎えいたしました。



細谷先生は商事社員、全日空客室乗務員を経て現在接客・マナー講師、宇宙航空研究開発機構(JAXA)教授秘書、恵泉女学園大学非常勤講師として多方面で活躍されており、様々な業種、職種の場で接客セミナー講師をされています。

開催に先立ち大字部長による挨拶、委員による諸伝達、講師紹介の後セミナーが10時から15時まで行われました。

講義内容は以下の通りです。

- 1、医療スタッフとしての接客
- 2、社会人としてのマナー

職場でのマナー：職場におけるチームワークの大切さ

自己啓発：自分のために何かをしてそれを職場に還元する

身だしなみ：清潔第一

3、立ち居振る舞い

立ち方の姿勢

お辞儀

椅子への座り方

物の受け渡し方

4、言葉遣い

直接の応対

電話での応対

5、クレームに対する応対



全体として一方的な講義形式ではなく4名一組のグループあるいは二人ずつのペアになり、テーマについて講師の説明を受け、それに関するディスカッションをグループで行い、それを発表したり実演する形式で進行していくので、最初こそ緊張からかぎこちなく声のトーンも低いのですが、セミナーが進むにつれて参加者の声や笑顔が増えていきました。

全ての状況に共通することは、私たちの職場はスタッフにとっては日常ですが、患者さん方にとっては緊張する非日常の場であることを意識して、明るく清潔感をもって接することであり、そのことを細谷講師は様々な状況を想定して示されました。

またそれぞれのテーマにおいて基本的なこと、例えば軽い会釈と丁寧なお辞儀の作法、物の受け渡しでは基本的に両手で扱い、片手で済むものでももう片方の手を添える、といった細かな動作を参加者全員が実際に行うことで、自分では判っていたつもり、行っていたつもりが実は不適切であることに気づかされるが多かったようです。



ことが肝心のことです。

最後にもう一つ、

「スリッパのホウ、お脱ぎになってお待ちくださいネー。」

「このまましばらくお待ちいただくカタチになりますネー。」

先生方もこのように丁寧なようで間違った使い方にお気づきのことと思います。

次の機会にでも貴院のスタッフの方々とともに参加されてみてはいかがでしょうか。

今回は11月頃日立地区で開催予定です。



次に、いろいろと問題に成りかねない電話によるクレーム対応です。

次の順番で行います。

- 1、最後まで話を聞く：全部発散してもらう。
- 2、お詫びを述べる：大変申し訳ございませんでした。
- 3、状況の説明をする：今後の対応策を述べる
か、判断できなかつたら
担当者になる、もしくは
折り返し連絡すること
を述べる
- 4、もう一度お詫びを述べると共にお礼を述べる：
知らせてくれたことに感謝を述べる
- 5、名前を伝える：〇〇が承りました（最初に
言っている場合は不要）

以上のようにお詫びの言葉でサンドイッチする



第23回茨城県歯科医学会 障害児・者歯科講演会に参加して

土浦障害者歯科治療センター

石居 由香、村居 幸夫
征矢 亘、森永 和男

平成27年2月22日の茨城県歯科医学会にて、日本大学歯学部講座教授の白川哲夫先生による講演会がありました。演題は、「障害のある子どもたちへの安全な歯科医療」という内容で、特に私はハンディキャップのある方と接することが多いので、とても興味深いものでした。



まず先生がお話されていたことは、スペシャルニーズのある小児への対応法として、歯科治療へのレディネス（準備性）を評価法で判定することでした。遠城寺式発達検査表を活用する事により、発達年齢を分析しやすく推測して治療を行うことでした。

最初に歯科医師や歯科衛生士に求められる基本姿勢として

- ①歯科治療に協力的でない場合、患者への対応は困難を伴うが、時間がかかっても信頼関係（ラポール）の確立に向けて忍耐強く努力する。
- ②対応法と治療目的は、患児の発達レベルに応じ

て決定する。

- ③処置内容、処置の緊急性や患児の協力度によっては身体的抑制下、あるいは静脈内注射・全身麻酔下の歯科治療が必要になる場合がある。

そして、小児の歯科医療での事故予防としては、診療の実施について保護者の同意が不可欠であるため、診療に先立って診療内容や危険性について、保護者に十分な説明を行い、診療にあたっては、治療を安全に進める上での留意点を常に念頭に置き、リスクの低減に結び付けるよう心がけることでした。

また、患者の知的レベルと治療の協力度を評価し、落ちついて治療を受けられるよう前もってトレーニングして、可能な限りラバーダムなどで口腔内への落下防止を施すことです。その時に呼吸状態を常にチェックすることも重要であり、万が一口腔に異物を落下させた場合や気道の閉塞が疑われる場合の対処法について、手技や手順を確認しておくことでした。

それから、小児には治療に伴う痛みを極力与えないよう除痛を十分行う必要があるということ、協力度の極めて乏しい低年齢児・障害児については、場合により専門機関での全身麻酔下の歯科治療も検討することでした。

さらに、脳性麻痺の方への摂食機能訓練や、心疾患患者の歯科処置の際の抗菌薬予防投与、歯科治療経過に小児うつ病と診断された患者への対応

での精神科主治医との協議など、こうしたスペシャルニーズのある小児歯科医療では、治療を安全に、かつ的確に行う上で多職種の協力が不可欠であり、今後さらに重要性が高まると考えられるということです。

最近では臨床においても、保護者の方だけではなく、介護士の方や学校の先生、言語聴覚士の

方達に直接見て頂いてお話を聞く事が以前より多くなったと実際に感じられました。

私も多職種の一人として、安心安全な診療が進められるように、スキルはもちろん子供たちが訴える身体症状に耳を傾け、心理・精神面にも配慮して対応していこうと強く感じました。



原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会



平成26年度茨城県女性歯科医会総会 および学術講演会報告

茨城県女性歯科医会 齋藤 文子

平成27年2月22日（日）水戸プラザホテルにて、平成26年度茨城県女性歯科医会総会および学術講演会を開催いたしましたので御報告します。

総会では、萩原洋子会長の挨拶にはじまり、事業、会計報告および26年度関東女性歯科医師の会全体会参加報告がなされました。

学術講演会は、「西洋・東洋医学からみた口臭治療」と題して、針灸師の資格も持つ中城基雄先生に講演をしていただきました。ここに講演会の概略を紹介させていただきます。

1. 口臭の原因は？

①口腔内の原因 6割

②体質的な原因 4割

「木（口腔）を見て森（体質）を見ず」ということがない様に診断することが必要。

2. 臭いのタイプとその原因は？

①硫化水素臭（温泉臭・硫黄臭）

→主に舌苔に由来

②メチルメルカプタン臭（金魚鉢臭・血生臭い）

→主に歯周病由来

③ジメチルサルファイド臭（発酵臭・魚の臓物臭）

→主に腸内腐敗臭に由来

3. 治療法は？

局所（口腔内）→主に歯周病の治療、舌苔の清掃など

全身→口臭が発生しやすい体質を5分類し、それぞれに合った漢方薬の処方とツボ刺激療法。

①カッカ熱化タイプ

②ネバネバ湿化タイプ

③サラサラ乾燥タイプ

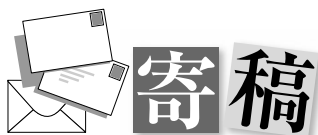
④ドロドロ血流タイプ

⑤ブヨブヨ浮腫タイプ

最近では、スマホ型口臭（少しうつむく姿勢の継続で唾液腺が圧迫され、また一点を見つめるという緊張状態が続き長時間しゃべらないため口腔内が乾燥することが原因）や、ダイエット型口臭（栄養バランスが悪くなるのが原因）も目立ってきたので注意が必要とのこと。

“木を見て森を見ず”ということがないよう、日々診療に臨むことが重要と、改めて気付かされた講演会でした。





生活習慣病予防対策推進健康フォーラム

「生活習慣病と慢性腎臓病

～あれ？と思ったその症状・・・沈黙の臓器、腎臓からのメッセージ～」

主催 一般社団法人 石岡市医師会

「めざそう健口長寿、守ろう腎臓～かかりつけ歯科医師による健康支援～」

茨城県歯科医師会 会長 森永 和男 先生

石岡市歯科医師会 小松崎 豊

1月31日（土）、ふれあいの里石岡、ひまわりの館におきまして、茨城県歯科医師会会長、森永和男先生をお迎えし講演会が開催されました。本公演は、石岡市医師会主催のイベントであり、石岡市歯科医師会も共催団体として参加しております。

講演は、2部構成となっており、第1部は、石岡医師会病院、内科医 中村博志先生のご講演が行われ、第2部に森永先生のご講演が行われました。

以下、その内容をご報告させていただきます。

現在、平均寿命の延伸により、人生80年と言われる長寿社会になった。ただし、平均寿命に健康寿命（活動的で自立した状態で生存できる期間）が追いついておらず、要介護の期間が発生してしまうのが現状である。

8020運動を達成し、1人でも多くの元気な高齢者を増やすことが、我々歯科医師の目標である。

WHOでは、「健康とは病気でないとか、弱っていないという事ではなく、肉体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態にある事。」と定義されている。



超高齢社会のこの時代においては、自分がどう感じているか（健康か、不健康か）が重要である。

又、新しい健康とその支援環境整備として、歯科医師の主治医「かかりつけ歯科医」を持つ事も、その1つとして挙げられている。

生活の質（QOL）を高め、年齢を重ねる度に新たな発見をし、楽しむことが出来る。その様な時間を創造することが本当のアンチエイジングの意味である。

米国保健教育福祉省が1979年に公表した“Healthy People”の健康規定要因では、保健医療行為の役割はせいぜい10%ほどで、日常生活習慣が50%以上を占めている。

歯科医療とは、口腔の機能の維持、増進によって、「食」と「会話」という人間の生活の根幹に関わる「生きる力」を支援する生活の医療であり、その確立を我々は目指している。

茨城県の高齢者は、70万人を超えており、急速に高齢化が進んでいる。石岡市でも3割近い人口が65歳を過ぎている。この方々が、楽しい老後を過ごせるようにするためには、我々歯科医師がどの様に対応していかなければならないのか、それが重要である。

口腔内バイオフィルム内には、口腔内の清掃が出来ない場合には1兆個もの細菌がその中に生息しており、この「菌数」を減らす口腔ケアをしていく必要がある。

唾液は、1日に1～1.5ℓほど分泌され、様々な働き（円滑・洗浄・溶解・消化・保護・緩衝・抗菌作用）がある。

病的な口臭の場合、80%以上は口の中の細菌が原因である。

虫歯や歯周病の原因は細菌であり、プラークは細菌の塊である。歯周病の原因菌は嫌気性菌が多く、有害物質を出して炎症を起こさせる。

そしてこの「嫌気性菌」が血液に入り込んで全身に運ばれることにより、多種の病気を引き起こすこととなる。

歯周病は糖尿病の第6番目の合併症であり、歯周病の重症度と糖尿病の関係が明らかになっている。歯周病菌がTNF α を誘導し、インスリンの働きを阻害して糖尿病を悪化させる。

又、歯周病治療により血糖値が改善する事がある。

40歳以上の国民の1/3は「糖尿病」または「その予備群」と言われている。この国民病とも言える糖尿病と、腎臓病（糖尿病性腎症）とは、お互い



深く関わっており、腎臓病と糖尿病はセットと考えられる。

慢性腎臓病の治療にかかる医療費は4兆円であり、歯科治療によりこの医療費が抑えられる可能性がある。

肺炎は死亡原因のトップ3に入り、そのなかでも「誤嚥性肺炎」は口の中の菌が関わっている。誤嚥性肺炎の病巣から歯周病菌が検出されている。口腔ケアの重要性が窺える検査結果である。

さらに、専門的口腔ケアにより介護施設等での「誤嚥性肺炎」の発症が、30%以上減少したというデータや、「頭頸部進行がん患者」の、術後合併症の発生率を、口腔ケアで減少させられるとの研究報告もある。

また、歯がほとんど無いのにも関わらず、義歯を入れていない人は、20本以上歯がある人の2倍近く認知症になるリスクが高いとの研究報告がある。

まとめ

歯周病と糖尿病は深く関わっており、歯周病治療により糖尿病の改善が認められる場合がある。かかりつけ歯科医による口腔ケアにより、最終的に健康長寿につなげることが出来る。

講演後の質疑応答でも、残り時間一杯まで質問が飛び交い、市民の皆様の関心の高さが伺える、非常に有意義な講演会でありました。

8020推進・静岡県大会 in 沼津を視察して

石岡市歯科医師会 高野 裕行、町田 政道
 茨城県歯科医師連盟理事長 比企 利枝子
 監事 今井 文彰

2月8日に開催された標記大会に石岡市保健センターの職員4名と静岡県の活動状況を視察して参りました。

現在県下の口腔保健条例制定市は高萩市と日立市の二市に止まっていますが、市条例を考えておられる歯科医師会の一助になればと思い報告いたします。

2011年8月に歯科口腔保健推進法が成立し、翌年、同法第12条第1項で規定されている基本的事項が厚労省から発表されました。これで目指すべき方向、数値目標がはっきりしたのですが、残念ながら同法は理念法であるため法の趣旨を生かし、市民が同法の目指す社会を享受できるようになるには歯科サイドから積極的に地方自治体に働きかける必要があると考えます。同法は地方自治体、市民、関連医療機関が協調、協力し、それぞれの果たすべき責務を規定していますが、そのような環境が行政当局主導で整えられると考えるには無理があり、県下の制定市が2市に止まっているのもその辺に理由があるからと思われます。

それでは市町村レベルで日本初の市条例制定市である裾野市及び静岡県では現在どのような活動を行っているのか、そこに至るまでどのような経緯があったのか、現在の運動に問題はないのか、他の地方自治体は県レベルの8020運動をどのよう

に捉えているのか、いくつかの視点からの報告となります。

静岡県の「県民の歯や口の健康づくり条例」は平成21年12月に全国で3番目に制定され、2011年現在、裾野市を含め4市3町で市、町条例を制定し、この数も全国一を誇っています。

因みに茨城県は条例を平成22年9月に全国10番目に制定しています。

何処の条例でも「住民主体の8020を推進」とのフレーズが目につきますが、これを持続的、継続的に実践し、地域に根付かせるほど難しいことはありません。

啓蒙を啓発に衣替えし、行政と歯科医師会が上から目線で講演会を催し、市民をお客様扱いにする事業展開をしても長続きはしません。この反省は静岡県として例外ではなかったようです。

ではその静岡県がどうして例外になったのでしょうか？

その理由を探ってみると全国でもユニークな8020ステーション（住民歯科会議）と8020推進員という制度があったように思われます。

住民歯科会議は住民（一般公募・8020達成者・学識経験者・自治会・公共団体・事業者の代表者

などの他分野の住民）と行政、歯科専門家（歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士）で構成され、住民の要求や意見をフィードバックできるシステムとなっています。そして、この会議が県レベルと地方自治体レベルに作られており、それぞれの特色を生かせるようになっています。

8020推進員とは歯科医師会が主催する講義と実技実習の研修を受けて、積極的に8020運動を啓発、普及するボランティアの方を指します。

ここでは市町村レベルでの口腔保健条例制定を視野に入れて、その成功事例として裾野市の住民参加・協働型8020推進運動を取り上げてみます。

裾野市歯科医師会は条例策定に当たり市の健康推進室と連携して住民歯科会議のメンバーを選び、各地域のニーズや問題点を取り上げ、次にそれらを歯科保健計画にまとめ上げるという作業を経て、後出の裾野市住民歯科推進会議へ結びつけるという大変な過程をやり遂げております。これはこれから歯科口腔保健法、県条例の趣旨を生かし、実

践する市条例づくりを考えている自治体、歯科医師会にとってはなかなか高いハードルと言えます。実際、静岡県でも挫折した地方自治体があるとのことでした。

この過程を詳述すると地域歯科連携会議を平成22年3月に立ち上げ、3回の議論を経て平成23年度に裾野市住民歯科推進会議を発足させています。

この推進会議で

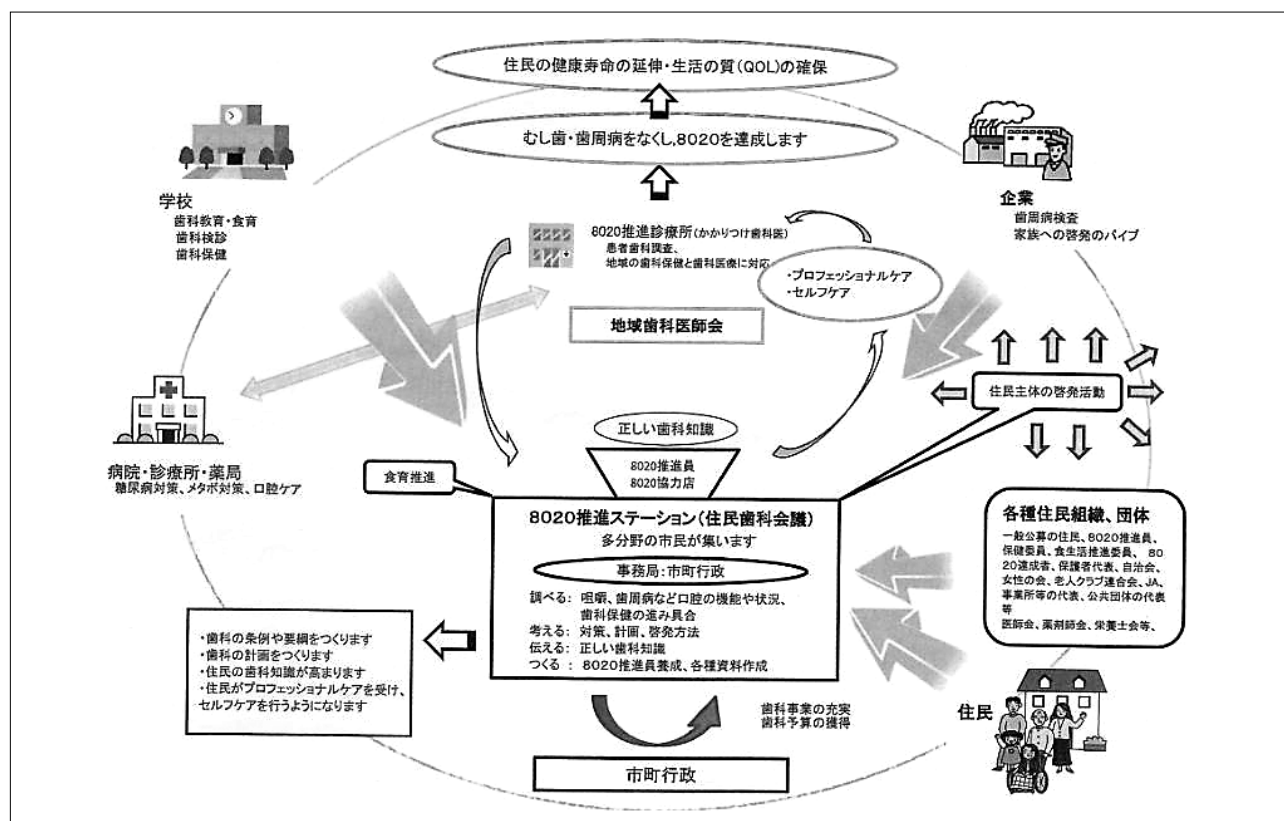
・市の健康増進計画の中の「歯科保健計画」の実行状態、評価を行う。

・年3回開催 1回目は年度の予定を決定

2回目は中間報告、以後の計画の確認

3回目は実施報告と次年度の計画が決められ、地区歯科保健活動、8020推進員養成講座、8020推進員活動、講演、健康講座等が決定されたとのことでした。

また年度ごとに活動のテーマがあり、平成24年度は「防災と口腔ケア」だったそうです。



8020ステーション（住民歯科会議構想図）

その防災訓練から出てきた問題点の解決のため、他の職種と講習を行うなど日頃から積極的にPDCAを取り入れているとのことでした。

更に、行政各課、医師会、薬剤師会、消防、栄養士会等各組織との連携等も含め、人口5万程の地方都市でありながら、実に縦糸と横糸を見事に織り込み、県歯、県と共に富士山と南海トラフに挟まれた自然災害リスクをも跳ね返すエネルギーをもって8020運動を構築しているようにみえました。

このような運動体の年一回の報告と顕彰を兼ねたイベントが今回の県大会in沼津ということになります。

始めに、この大会の視察は市条例を考えている我々には勿論の事、市の職員にとっても今後の市の施策に寄与するところが多々あると思われませんが、この視察が茨歯連盟監事の今井文彰先生と「高齢者歯科医療や歯周病治療」で全国的に高名な米山武義先生のお二方のご厚意で実現できたことを申し添えておきます。

また、米山先生には駿東歯科医師会理事で裾野市歯科保健条例制定に当たり中心的な役割を果たした遠藤由香先生を紹介して頂きました。先生からは体験を踏まえた貴重なご助言と多数の関連資料を送って頂いた上、当日静岡県歯科医師会8020運動推進部長才川隆弘先生との懇談の席まで用意して頂きました。この場を借りて深甚なる感謝の



意を表します。

それでは大会の報告に移ります。この大会が一般市民から選ばれた住民歯科会議会長の開会の挨拶から始まったのは、実に新鮮でこの催しが住民主体で作られていることを実感させるオープニングとなっております。

式典の合間には日本大学歯学部植田耕一郎教授監修の8020サンバ体操が入り、会場の参加者も一斉に立ち上がるよう促され、音楽に合わせて体をくねらせといった趣向あり、地域のご婦人連が団員となっている8020推進劇団が披露する虫歯予防の寸劇あり、児童・生徒の部、一般の部から8020童話賞が発表されるなど誰もが楽しめる形で構成されておりました。

視察の目的の一つである8020推進員の活動報告は沼津市の方は「歯の大切さを子供たちに伝えたい」裾野市の方は「8020推進員になって～私の目指す地域活動」

長泉町の方は「長泉町8020推進活動のあゆみ」という演題で緊張の中にも、会場から時折笑いがもれる発表となっていました。



裾野市8020推進員の発表

最後に沼津市在住の登山家と神奈川歯科大学の先生の講演で3時間の式典は終了となりました。

このような大会を静岡県歯は都市を移し、毎年開催しているそうです。

大会を振り返って、

- ・住民・行政・歯科専門家の三位一体を成功させるには？
- ・8020運動に市民が積極的に参加する理由は？
- ・歯科医が変われば市民も行政もシステムも変わる！

といった切り口から条例に取り組む大切さを考えさせられた一日となりました。

特に最後の項目は逆にシステムが変われば歯科医師が変わる、変わらざるを得ないと遠藤氏は強調されていました。



遠藤先生、才川先生との懇談

市町村にはそれぞれのカラーがあるのは当然ですが、条例制定、運用の成功の道にはそれなりの理由があり、県民・県・県歯と住民・市町村・歯科医師会、それぞれの三位一体が有機的に協働・連携する努力をしているかどうかが鍵のようです。

最後に静岡県のある自治体の歯科保健推進会議

の議事録から抜粋

お互いの思いの方向は同じでも地方都市の事務局が県の8020推進会議をどう見ているか……

「県が設置している住民歯科会議がありますが、それが機能しているとは思えません。8020推進会議を県で開催していますが、その活動実態とか8020推進員を養成しているそうですが、その情報が市には何も入ってきていません。会議が機能してない理由としては、委員の数が多すぎる点です。(途中略)一時間の会議を実施しても一回も発言しない委員が大勢います。行動できない会議になってしまっていると思います。(以下略)」と続いています。

才川先生からは県歯の住民歯科会議の委員として一般市民を公募し、忌憚のない意見を述べて頂き、それを県民の意見・要望として県の8020推進会議の場で報告しているとの説明がありました。



遠藤先生、才川先生、石岡市保健センターの皆さんと

以上、参考になれば幸いです。

写真 今井文彰

文 町田政道



去る2月11日（水）建国記念の日の祝日、筑波山神社で行われた『年越祭』にはじめて参加してきました。友人の県会議員の後援会の方から誘われ、訳も分からず「参加する！」と返事したはいが、何をやるのやら・・・。

ネットで確認してみると、このお祭りは、「来旧暦正14日に追儺式（豆まき）を行っており、14日というのは小正月の晦日にあたり、その年初めの満月（十五夜）を迎えます。そこで神社でお祓いを受け心身を清めた年男が福男となり福を与える為、福豆とともに多くの福物を撒き、満々たる月の如く一年の一陽来復・家内安全・身体安全・除災招福・厄除けなどを祈願する祭礼であります。ご奉仕戴く年男は、厄年や生まれ年の方に限らず毎年つづけて奉仕いたします。これが他の社寺で行われている節分とは異なるところで、現在は2月10日・11日の二日間にわたり約600名の年男年女が参加し盛大に斎行されます。」とありました。ということで毎年お相撲さん等も追儀式（豆まき）に参加することもあり、豆拾いに参加する参拝客も大勢参加し賑わうそうです。

当日はいつも飲み誘われる方々と昼食を済ませ、乗り合って筑波山神社まで移動。その日は2月にもかかわらず、快晴のポカポカ陽気で暑いくらい。他の団体の年越祭客と家族連れの参拝客の車で道路から駐車場まで満車状態。何とか駐車できるまで30分近く。そして祭後の宴会（直会：なおらい・・・と言うらしい）会場のホテルへ。1Fに降り時間がくるまで日本酒で景気付け（驚）。仲間内のほとんどがJC（青年会議所）OBということもあり、みんな酒が強い。飲むわ飲むわ・・・

あっという間に祝い酒の一升瓶がゴロゴロ。「神社まで登れんのか！？」とこっちが心配になるほどだが、その間にも容赦なく酒を注がれ、日本酒が弱い私は誤魔化しながらチビチビ。やっと順番が来て、いよいよ着替え。袴を係のお姉様方に羽織らせていただき、草履を履いて3Fのロビーに戻り出発を待つ。・・・がその間、今度は升酒「（´～`；）F」

午後2時より1時間毎に1回、追儀式が行われるそうで、私たちは3回目の午後4時が予定でしたが、時間が押していて、その分みなさん酒が進む進む・・・。



やっと順番がくると、みんながホテルの入り口に整列し、先頭で鉄棒曳きが「御年男ばんざーい！御年男ばんざーい！」と大きな掛け声をかけながら、私たちもそれに続き、いざ神殿へと練り歩きます。途中、まず神社入口の祠でお祓いを受けます。そして集合写真の撮影をはさみ、行列は拝殿に進み、追儺式の前にお祓いを受け、心身を清めて福男となる儀式が行われます。

神事が終わると、追儺式（豆まき）がはじまります。「ドンドンドン！」と



太鼓が鳴り響き、参拝客が待ち受ける特設舞台に移動し、一斉に福豆や福物を撒きます。みなさん、ビニール袋や帽子やらを大きく広げ、「おもちゃようだーい!」「こっちにも投げて〜!」と興奮気味に手を伸ばしていますが、なかなか思い通りのところには投げられません。私は最終組ということもあって、最後は用意された撒き物を投げるといふより、バラまく感じでした（笑）。福物は屋台くじにあるような小さなおもちゃ（心優しい先輩が自腹で用意しました）や、お菓子や紅白餅、ラーメンなど、昔の上棟式のような感じです。

上から見てると、女性の方がやはりこういう時は強さを感じました（怖）。

終わる頃には外は真っ暗。それでも次の組の追儀式を待って参拝客はまだまだ集まってきました。

私たちは、ホテルに戻るや直会（宴会）が始まり、またしても酒盛り。ですが私の仲間内は昼食を食べ過ぎたせい（普通の定食でも量が多いのに、その他に蕎麦だのサラダだのシェアした上にジョッキ2、3杯飲んでる方もいましたから）で、いまいち食が進まず、酒を飲むだけ。飲むのにも飽きた頃、ちょうど中締めとなったので、先輩方とさっさと露天風呂に浸かって代行を待ち、下山しました。

参加者にはお札が配られ、翌年また持ち寄ると



のことなので一度参加したからには、当然毎年参加することになりそうです。で

も初めて参加しましたが、酒の量以外は参加して良かったかな・・・と。今年は良い事がありますように（祈）。

（コバ）

東日本大震災から丸4年が経過した。私は、ほぼ過去のことはうろ覚え、もしくは全く思い出せないことも多い。昨日は何を食べたのか思い出せない、旅行の行きは覚えているけれども帰りの記憶がない等。妻に言わせると「今に始まったことではない」と言う。確かに、妙に納得してしまう自分がある（笑）。しかしあの想定外の天災は、鮮明に記憶している。直後は映画のワンシーンか、何かの間違いでは？認識するまでタイムラグがあった。いまだに大勢の避難者がいて、解決の糸口さえ見えない問題が山積している。あの数日はひどく寒かったと記憶している。電気も水もない日々がこんなにも大変だとは。当たり前の毎日に感謝しなければと思う。

先日、偕楽園に行ってみた。久しぶりだ。子供が幼稚園の頃が最後で、いつでも行けると思いながらご無沙汰していた。日差しが柔らかく穏やかな日だった。今年は例年に比べ暖冬なのか、この時期にしてはあまり寒さを感じなかった。江戸時代以降、花見といえばサクラの花を見るとされてきたが、奈良時代以前は「花」といえば、むしろウメを指すことの方が多かったそうだ。青梅には、青酸が含まれているので食べると死ぬといわれているが、子供の頃、怖いもの見たさでかじったことがあったが幸い大事には至らなかった。また、梅は塩とともに最古の調味料だとされている。味加減や調整を意味する「塩梅（あんばい）」とは元々、梅と塩による味付けがうまくいったことを示した言葉だ。果実は梅干し、梅酒、梅酢、ジャムなどになる。強い酸味が特徴で、クエン酸など多く含むので健康食品としても販売されている。「見ても良し、学んでも良し、後で食しても良し」と言われ奥の深い木だと改めて感じた。梅の別名は好文木、その好文亭からの眺望は見事で、梅の静かな美しさも格別で震災後のせいか新鮮な気がした。花の見頃を迎えた偕楽園でのひとときでした。

（生る）

年が明けて早3か月、最近めっきりと暖かくなってきた。花粉症に苦しんでいる患者さんも増えてきて、春の訪れを感じさせる。我が家では、別々に暮らしていた大学生の子供二人が同居することになり、年明け早々より引っ越し準備に追われていた。

大学生といえば、年明けがテスト期間で最も忙しい時期。おのずと準備は親が進めることになる。二人分の家賃を合わせると、グレードアップした部屋に住んでもおつりがくる。その分で少しでも学生生活を充実させたい。そんなわけで引っ越しことになったのだが、仕送りする側は何の得にもならない。まあ不摂生な生活をお互い監視でもしてくれれば、少しはメリットもあるか。

居住地、不公平にならない間取りの部屋、お互いのこだわりの条件などを考慮し、ネットで調べまくり、候補の部屋をピックアップしいざ不動産

屋へ。いくつか内見したが、一長一短。すると最後に、予定が早まり、本日退去した目玉物件があるとのこと。ホームページには未掲載。早速見させてもらったところ、二人とも気に入り、そこに即決。夜な夜なネットで調べまくった日々は何だったのかと思いつつ、無事に部屋が決まり一安心。そしてテストが終わり、面倒なことは1日で終わらせたいと思い、ちょっときつかったが、二人同じ日に引っ越しを済ませた。

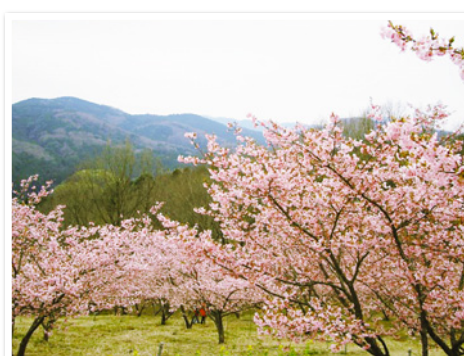
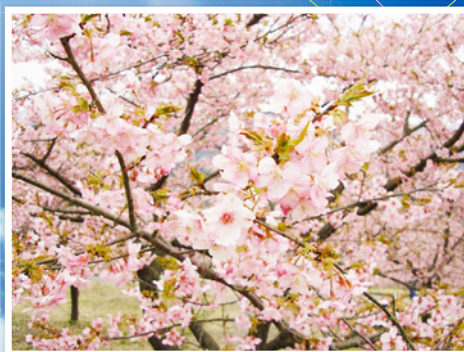
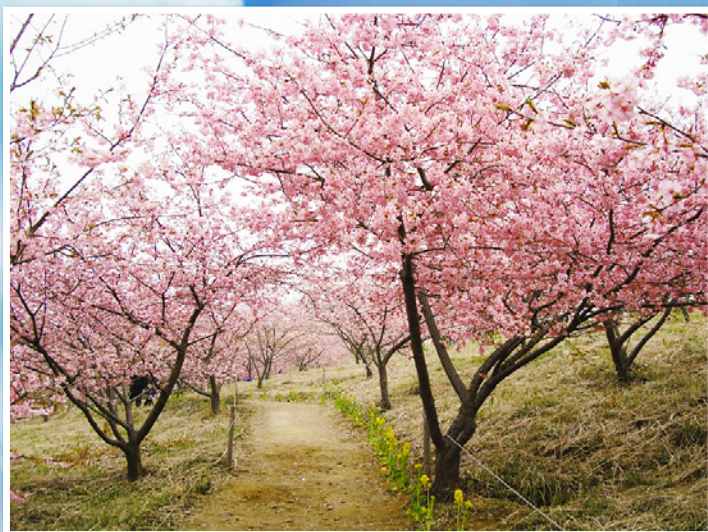
まだ部屋は片付いていないようだが、こっちはやっかいなことが片付きほっとしている。また、同時期に進めていた地区広報誌編集作業も校了となり、こちらも肩の荷が下りた気分。疲労と腰痛は後を引いているが、ささやかな春の安らぎを味わいました。

(仁)



みんなの写真館

Photo
Gallery



河津桜はオオシマサクラとカンヒサクラの自然交雑種であると推定されています。1月下旬から2月にかけて開花する早咲き桜で、ソメイヨシノよりも桃色が濃く、花期が1ヶ月と長いところが特徴です。

(社)土浦石岡歯科医師会 大木 勝生

みんなの写真館写真募集 !!

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員 1,144名
2種会員 50名
終身会員 133名
準会員 1名
合計 1,328名

会 員 数

平成27年2月28日現在

支 部	会員数 (前月比)
日 立	121
珂 北	138 -1
水 戸	158 -2
東西茨城	74
鹿 行	103
土浦石岡	172
つくば	119
県 南	179 -1
県 西	157
西 南	106
準 会 員	1
計	1,328 -4



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 27 年 3 月

発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地

電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075

ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>

E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘

編集人 菱沼 一弥



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。